

C-24 被服からみた人間工学 —母と娘の体型の比較—

名古屋市立女子短大 高橋春子 石原陽子 大田寿子 O後藤恵子 愛知大短大一部 岡通子 端穂短大 鈴木照子 日大附大 垣高 和田恵美子

目的 ドレスパターンの為の人体研究に關しては各分野からなされているが、今回は血縁の娘と母を単位として、親子の体型の類似性とスライディングゲージによって横断面を測定し比較検討したので報告する。

方法 計測期間：昭和48年5月～7月

被験者：A群 名古屋市立女子短期大学学生40名。

B群 同学生の母親（血縁の母40～50才）40名。

測定器具：スライディングゲージ、マルテン測定器

測定部位：体幹部（頸圍、肩峰圍、上部胸圍、乳頭圍、下部胸圍、最小腹圍、腸骨稜部圍、臀圍等）

結果 1. 幅徑に關しては平均値では大差ないが、各母と娘を比較した場合は母が大であるという組み合わせが多い。2. 厚徑に關しては個々の比較結果も平均値に於ても母の方が娘より大である。3. 周徑項目（断面圍）に關しては母が娘より全体的に大きく、特に最小腹圍はその差が顕著であり、各部別に觀察すると頸部はあまり差異が見られないが、その他の各部に關しては娘の方が幅徑に対して厚徑が小さい。やはり凹凸が多い。母親は全体に凹凸が少なく、各断面は円に近くなっている。